

## 課題

### お互いの考えや気持ちについて英語でコミュニケーションできる生徒

- ▶ 埼玉県学力学習状況調査の結果から、本校の「**外国語表現の能力**」の平均正答率が県の平均正答率を大きく下回っている。
- ▶ 意識調査アンケートから、生徒は「**英語を話すこと**」を最も苦手としている。→間違いが怖い、自信がない。
- ▶ 埼玉県学力学習状況調査等の結果から「**学力向上**」が喫緊の課題であり、全教科において**基礎基本の定着が必須**である。

## 具体的な取組と工夫

### ■指導と評価の一体化

#### ○帯活動の充実

帯活動を充実させ、弱点強化や基礎基本の土台作り、4技能5領域の関連とバランスを意識した言語活動を行う。

#### ○インプットとアウトプットの接続

教科書本文や仲間の意見等をインプットさせ、インプットしたことを抽出、整理、統合させアウトプットさせる。

#### ○意図的・計画的な中間指導

場面や状況の確認、よい表現の共有、頻度の高いミスの修正、意見を深める助言等の中間指導を通してねらいにせまる。

### ■外国語を活用できる環境づくり

#### ○ICT機器の効果的な活用

言いたいのに言えない表現を調べる、意見交流を通して意見を深める、スピーチの動画を撮影し相互評価等で活用。

#### ○英語の掲示物の活用

ALTスペースの設置、新聞記事の活用、感染予防の呼びかけに英語のポスターを活用、職員室に英語で入室等。

## 成果

- 単元のまとまりを大切に、**指導と評価の一体化**を図ることで、生徒が見通しを持って**主体的に学習に取り組める**ようになった。
- 「話したことを書く」など**4技能5領域の関連**や**インプットとアウトプットの接続**を図ることで、**即興性や発信力強化**につながった。
- ICTを活用することで**主体的・対話的で深い学び**を実現し、生徒の**基礎基本の定着と自信をつける**ことにつながった。

## 課題及び改善案

- 学力差や意欲の差が大きく、ICTをより効果的に活用する等して、**個別最適な学習**を実現させること。
- 学力差が大きい中で、すべての生徒に「**即興性**」と「**やりとり**」を育む授業展開の研究。